



## お江戸舟遊び瓦版 571号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティー・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

淡交会・環境セミナー

### 「雨水活用と福祉型銭湯」

日時：平成30年2月24日（土）16時～18時

所：東京環境工科専門学校

主催：淡交会 <http://tankoukai.net/>

講演：伊藤林（62回）



#### 1. 自己紹介

東京理科大学物理学科卒、墨田区石原で銭湯「御谷湯」経営。

- ・ 墨田区廃棄物減量推進審議会委員、エコストア、墨田区環境フェア実行委員長  
NPO 雨水市民の会事務局長、雨水利用普及啓発活動
- ・ 1980年代 資源ごみの集団回収に参加  
92年4月 資源ごみの回収拠点を設置、雨水タンクを設置  
93年 雨水探検隊結成  
94年8月 雨水利用東京国際会議参加（世話人）  
95年 雨水利用を進める市民の会発足（理事）  
2003年 雨水市民の会に改名 2011年事務局長



#### 2. 環境活動

- ・ 地球上の水は97.4%が海水、2%が南極の氷や万年雪、使える真水は0.6%しかない。都会も今は水不足。雨水を資源として活用しようと国際会議を行い、市民委員会を設けた。
- ・ 雨水探検隊：水の文化、水に親しむために、市川市に田、その後小学校に田づくりを行った。
- ・ 当初は、区職員の村瀬氏を中心に活動したが、新しい職員はなかなか趣旨を理解できないでいる。

#### 3. 福祉活動+福祉型家族風呂

- ・ 障害者支援ボランティア活動を始め、移動支援を始めた。
- ・ 肢体不自由な方にも楽しく風呂に入れるようにと考えるようになり、福祉風呂を検討し始めた。

(福祉風呂)

- ・ 今までの銭湯から、5階建ての福祉型家族銭湯を建てた。障害者が家では難しい入浴が家族同伴で出来るように補助設備を完備したが、銭湯では男女の混浴はできないとの行政指導に困惑した。

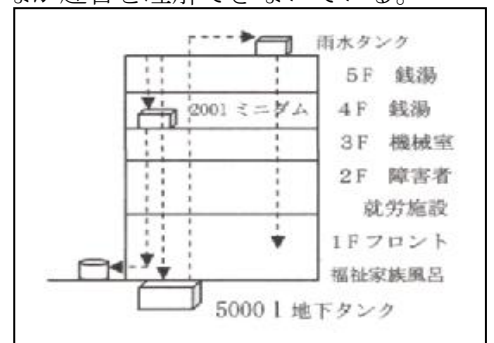
そのことがネットで広がり、担当行政にメールが急増し、当局も特例対応をせざるを得ないことになり、可能になった。雨水利用を考え、地下に雨水タンクを設け、屋上雨水タンクにポンプアップし、各階に供給するとともに、4階にミニダムを設け、表の噴水や水琴窟に水を供給し、皆さんに楽しんでもらっている。

2階に障害者就労施設を設けた。障害者の方々の居場所づくりとして常時30人前後の人に利用して頂いている。

(銭湯よもやま話)

- ・ 近くには相撲部屋が多く、一人で風呂がいっぱいになることやビンツケ油による湯汚れなど課題は多い。  
ニューハーフの人もいて、男湯か女湯かで混乱が生じることがある。

**所感：**浴場組合の役員をはじめ、町会、神輿総代、地域の環境・教育・福祉関連と肩書が30にも及ぶ激務の中、持ち前のアイデアマンとして、今や大評判の家族型福祉風呂を設ける等大活躍の伊藤さんの講演は地域づくり、福祉活動、環境活動にとって大変貴重な中身の濃いものであった。ますますのご活躍を期待したい。(文責 中瀬)



## 「福祉市民体験農園」開設フォーラム

日 時：平成30年3月6日（火）13時半～17時

所：長岡市社会福祉センター「トモシア」

主 催：NPO UNE <https://www.une-aze.com/>

開会挨拶：家老洋（NPO UNE 代表理事）

来賓挨拶：本多史朗（長岡市社会福祉協議会会長）

長谷川雅泰（長岡市福祉課）

「福祉・市民 体験農園」概要説明 斎藤喜一（NPO UNE 理事）

基調講演：「農福連携と市民農園」 林正剛（NPO HUB'S 理事長）

- ・ 今、福祉と農業の連携と市民農園に期待が集まっている。
- ・ 障害者の現状とこれから：身体障害 392 万人、知的障害 74 万人、精神障害 392 万人、発達障害は人口の 1～2%とも言われ、就労の希望が広がっている。また、拡大しなければならない。
- ・ 農業の現状と問題：農業の高齢化、従事者の減少、耕作放棄地の拡大など課題山積である。日本の農業の現状を踏まえて、農業と福祉の連携が期待される。
- ・ 農福連携：農業の問題点を就労を求める福祉と連携することで、地域の活性化にもつながる！！事例は、長野県の「玉ねぎの根と茎切」「田んぼの除草」「ブドウの笠掛」作業等々が多い。
- ・ 滋賀県栗東市「地域を巻き込んだ農福連携プロジェクト」  
障害者のメンバーが増える中、山奥には耕作放棄地があるとの JA からの情報があった。山の中ではイノシシ被害が続いていた。コンニャクならイノシシが食べないとの情報から収穫に3年も掛かるが、フェンスなしでも可能と考え、スタートした。栗東市は人口増加率 10%、平均年齢 39 歳で、市内の発展と山間地の停滞の二極化の特異地域。若者の農離れ、地産地消への無関心、地域の食糧自給率の低下が課題。その解決策に、人の交流で動きをつくる、モノの交流で新しい産業をつくる、心の交流で元気をつくるを合言葉に農福連携プロジェクトを展開した。中山間地を農福連携のコンニャク芋畑に特化し、今では栗東と言えば「コンニャク」と自信が持てるまでになった。
- ・ 農家問題と障害者の就労が連携した地域の担い手づくり。社会的弱者が地域づくりの担い手に！

### パネルディスカッション『福祉・市民体験農園』が目指すユニバーサル社会

- ・ 近藤龍良（NPO 日本園芸福祉普及協会 副会長）：企業戦士から私の障害を持つ子供のために日本で最初の市民農園を群馬県で始めた。土との接触が少なくなり障害者が多くなったとも言われるが経営が成り立つ仕組みづくりに注力してきた。一時は見学者が多くなりすぎ困ったが、今は見学者を断って展開している。
- ・ 石黒俊之（園芸福祉にいがた事務局長）：2代目花屋。2007年に園芸福祉に出会い、その後活動している。
- ・ 林正剛：今、市民農園が熱い。ニーズは高いが行政の支援は少ない傾向だ。
- ・ 家老洋：今までの行政の市民農園から、利用者本位の市民農園を UNE の理念をベースに皆でつくり上げたい。長岡市の中心部の好条件を活かし、福祉、教育、体験、保養、交流の場づくり、環境保全を目的に、信濃川という立地の3年に一度の洪水確率は厳しいが、集う人々の良好な関係をベースに市民福祉の向上を目指したい。

UNEHAUS：夜は宿泊し、遅くまで、理想と現実を話し合った。UNE のある一之貝は積雪 3m にも

なる山地。HAUS の他にどぶろく工場や棚田があり、人々の絆づくり、地域づくりに努めている。



所感：農福連携「福祉市民農園体験」フォーラムに参加することができた。少子・高齢化が進む中、農福連携で暖かい質素な「もったいない」、持続可能な地域づくり・国づくりを期待したい。（文責 中瀬）